25トンの金型に
挟まれ、死亡

作業前は、『事前打合せ』

作業中は、『周囲の安全』を確認しましょう

慣れてきた時ほど慎重に！
慣れてきた時ほど
流れ作業におちいりやすくなります

25ﾄﾝの金型に挟まれ
社員の男性死亡

社員は1人でリモコンを使って、クレーンを操作中だった
金型が崩れ、別の金型との間に体を挟まれた

男性は約30年の作業歴があった

2024/2/13

13日午後5時20分ごろ、群馬県の工場で、男性社員（60）が作業中に、崩れてきた金型に体を挟まれました。

救急隊に救助されたものの、その場で死亡が確認されました。

警察によると、男性は1人でリモコンを使ってクレーンを操作し、金型をつり上げて移動させる作業をしていました。

何らかの理由で置かれていた金型が崩れ、別の金型との間に体を挟まれました。

金型は約25トンで、男性は約30年の作業歴があったという。